

2020年11月27日

# 法務省 『国民の声』 を聴く会

報告者：南野 奈津子（東洋大学/社会福祉士）

## どのように「総合的な支援をコーディネートする人材」を養成するか

1. これまでの人材養成の実情と課題：日本社会福祉士会の実践と調査から
2. コーディネート人材が習得すべき知識・技術
3. 人材養成の方法

# 1. これまでの人材養成の実情と課題：日本社会福祉士会の実践と調査より

2014年	<p>【滞日外国人支援に携わる人材養成の現状と課題に関する調査研究】 (全国の支援関連機関、職能団体413か所へのアンケート調査；213機関の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・人材養成の研修実施は45%</li><li>・頻度は「年に一度」が61%、時間は「2時間以内」「2～5時間」が57%</li><li>・44%は受講者要件の設定なし。内容は在留資格、社会保障制度、関わり技法等</li><li>・未実施の理由：開催費用、講師の確保困難、受講者の確保困難、参加者の知識差</li></ul>
2017年	<p>【滞日外国人支援に携わる実務者（社会福祉士）の滞日外国人支援基礎力習得のためのガイドブック作成及びプログラムの開発事業】 (1000か所の支援関連機関へのアンケート調査；378機関の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・63%は「支援負担感を少し感じる・とても感じる」</li><li>・85%は「多文化ソーシャルワーク関連研修の参加経験なし」</li><li>・参加者の年齢は高い傾向</li><li>・社会福祉士有資格者のほうが多職種連携や調査等の必要性をより感じている</li></ul>
2018年	<p>「滞日外国人支援基礎力習得のためのガイドブック」作成 E-learning教材開発、研修実施</p>

## 2. コーディネート人材が習得すべき知識・技術

参照：【滞日外国人支援に携わる実務者（社会福祉士）の滞日外国人支援基礎力習得のためのガイドブック作成及びプログラムの開発事業】報告書（2018）p19～25

- ・ コーディネート人材としてのスタンス：役割の理解
- ・ 入管法
- ・ 社会資源：「何を」コーディネートするのか
- ・ 対象者理解：なぜコーディネートが必要なのか
- ・ 連携：誰&どの機関をどのようにつなぐのか

### 3. 研修のあり方

参照：「滞日外国人支援基礎力習得のためのガイドブック」（2018） p 102～109

- ・ 実施者及び講師：教育機関、職能団体、外郭団体（国際交流協会等）、その他（NPO,社会福祉法人等）
- ・ 一定の知識・技術を習得する全国統一的な内容と各地域の特性を反映した研修の組み合わせが効果的ではないか
- ・ 研修そのものがネットワークキングとなることも重要
- ・ オンライン等の活用